

**金沢市歴史的風致維持向上計画（第2期）中間評価（素案）についての
パブリックコメントでのご意見の概要と金沢市の考え方**

募集期間：令和4年11月25日（金）から令和4年12月24日（土）

募集方法：メール、郵便、FAX又は窓口

意見数：8件（意見者数3名）

No.	ご意見の概要	金沢市の考え方
① 素案全体について		
1	事業・取り組みの進捗状況の評価に関して、自己評価に至る（定量的な）評価が分かりにくく感じた。目標指標の設定等が示されると評価が分かりやすくなるのではないか。	本計画では、定量的な目標指標を定めていないため、定性的な評価が中心となります。なお、「課題解決・方針達成の経緯と成果」の一部に数値で成果を示しております。最終評価に向け、よりわかりやすく、そしてその結果が今後の計画により反映できるよう検討してまいります。
2	「今後の対応」については、第2期で何ができていないのか、何が不十分であったかが分かるように整理した方が、次期計画に反映しやすいのではないか。	
3	「自己評価」と「今後の対応」が非常に気になる。20ほどあるシートの中で、反省や改善の必要性に関する記述は一切見られない。改善が望ましい事項もあると思うので、適切なPDCAにて今後も施策を進めて頂ければと思う。	外部有識者等で組織される「金沢市歴史まちづくり協議会」において、毎年、本計画のローリングや各事業の進捗状況等について確認の上、ご意見をいただきながら進めており、今後とも、PDCAの効果的な実施に努めてまいります。
② 方針別評価シート（様式2）について		
4	<p>きめ細かな取り組みによって金沢の歴史的風致により一層の磨きがかかってきたと思う。今後は、まだ活用しきれていない歴史的建造物の活用や用水・惣構の利活用など、引き続きの取組みに期待している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金沢城公園内旧第六旅団司令部庁舎 ・本多公園内の西外惣構（辰巳用水分水）の利活用 ・惣構暗渠区間におけるサイン表示 ・大野庄用水や鞍月用水に残る水車基礎等の用水利用の遺構保存と説明書きなど 	今後、関係機関と連携・協議する中で、参考とさせていただきます。

No.	ご意見の概要	金沢市の考え方
5	<p>こまちなみ保存事業について金沢市独自の素晴らしい制度だと思うが、年々歴史的なまちなみが失われているように感じている。また、指定当時と比べ住民も入れ替わり、意識も変わってきているのではないと思う。</p> <p>そのため、各町会や住民の方に対し、建物やまちなみとしての価値の認識や意識啓発を兼ねたアンケート調査等を実施し、今後の評価に活用してはどうか。</p>	<p>令和3年度にこまちなみ保存建造物所有者を対象に現状把握を目的としたアンケート調査を実施しました。加えて、大野地区において住民相互による協定締結区域を対象とした支援制度の拡充を実施したところであり、今後、他の地区にも展開し、まちなみ保存の意識啓発に繋げるよう努めてまいります。</p>
6	<p>各種子ども塾の開設について後継者の発掘・育成は、今後の歴史的風致の維持向上には必要不可欠な取組と考える。各種子ども塾の開設は非常に効果的と考えているが、よりすそ野を広げるために、小中学校の金沢ふるさと学習と連携しステップアップを図ることや、コロナ禍でも気軽に体験できるVR/AR体験等もプログラミング学習等と連携して取り組んではどうかと考える。</p> <p>また、評価として金沢出身の方が伝統文化や工芸技術の後継者につながっているかどうか把握できれば、より効果検証が分かりやすくなるかと思う。</p>	<p>現在、デジタル技術を用いた文化発信の取り組みを進めているところであり、頂いたご意見を踏まえ、活用策の一つとして参考とさせていただきます。また、金沢工芸子ども塾の修了者の中には、金沢美術工芸大学の学生となった方や、金沢職人大学校こどもマイスタースクールをきっかけとして、工学系の高校に進学した修了生もおります。引き続き、子ども達に伝統文化や工芸、職人分野の素晴らしさや魅力を伝えるよう努めてまいります。</p>
③ 波及効果別シート（様式3）について		
7	<p>地域防災力の向上についてはこれまで以上の取組が必要である。</p>	<p>近年、全国的に大規模な自然災害が頻発していることもあり、これまで以上に共助が求められることから、地元と連携し地域コミュニティを生かした防災力の向上に努めてまいります。</p>
④ 歴史的風致別シート（様式5）について		
8	<p>「街路・用水」について、すでに整備されている箇所のメンテナンスも十分にやっていくことが重要である。景観舗装や用水安全柵の損傷、一時しのぎ的な舗装補修などは、せっかくの歴史的風致の質を落としてしまう。</p>	<p>施設の補修・修繕においては、維持管理が容易な素材等を利用した持続可能な修景整備に取り組んでまいります。なお、道路陥没箇所等については事故防止の観点から、一般的な材料を用いて応急補修を行う場合がありますが、後に状況を見ながら、歴史的な風致の質を落とさないよう、適切な修繕に努めております。</p>